

つかむ

調べる

まとめる

深める

～歴史学習と関連付けて、日本のODAの意味について考えを深める活動～

1. 小单元名『世界の人々とともに生きる』

(教科書：『小学社会 6 下』 p.62～79／学習指導要領：内容（3）イ）

2. 小单元の目標

日本や世界の人々がさまざまな形で国際交流や国際協力を行っていることや、平和な社会の実現に向けて努力している国際連合などはたらきについて調べ、残されている問題にも目を向けながら、今後、国際社会の中で日本が世界に果たすべき役割について考えるようにする。

3. 小单元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
世界で起きている問題の解決に向けて取り組んでいる我が国の国際交流や国際協力の様子や世界の人々の活動に関心を持ち、意欲的に調べようとしている。	世界で起きている問題と、その解決のために行われている活動とを関係付けて考え、すべての人が安心して暮らせる社会の実現に向けて大切なことを、自分なりに表現している。	世界における問題を解決する国際交流や国際協力の事例について、資料を活用したり、経験者から話を聞いたりして調べ、まとめている。	世界の平和や環境を守るために人々が協力して活動していることや、国際社会で日本が果たしている役割、今後の課題について理解している。

4. 指導にあたって

(1) 児童の実態

「深める」1時間で、日本が中国に対して行っているODAの意味を考える時間を設定する。隣国・中国について、領土をめぐる問題や環境問題など、日常生活の中で触れることの多い情報からイメージを抱いている子どもは少なくない。ここでの学習を、共に理解し合うことの大切さ、未来を見据えたより良い国際協力のあり方に気付く機会にする。

(2) 教材について

中国は、日本をしのぐGDP世界第2位の経済大国である。そして、日中間には領土をめぐる問題などもある。そのような状況にもかかわらず、日本が中国へ「草の根無償資金協力」として小・中学校校舎建て替え支援を続けている事例を「深める」1時間で取り上げる。その事例から、中国に対してODAを行う日本政府の意図を考え、「国際協力は世界貢献であり、相手国のニーズに合わせた支援が必要である。」という見方や考え方まで高める。校舎の建て替えは、ODA相手国の中国にとって必要だから行っているというだけでなく、日中両国の友好な関係を維持・発展させるため、また、持続可能な社会の実現という地球的課題のために行っているとも言えるのである。

(3) 指導上の工夫・留意点

子どもの追究意欲を持続させるため、単元を貫く学習問題を設定する。世界各地で、平和や環境

を守るために日本人がどのような活動をしているのか、世界の人々とどのような協力をしているのかについて調べられるように、日本の国際貢献に関わる学習問題を設定する。単元を通して、誰もが安心して生き生きと暮らせる社会の実現に向けて、世界が協力していることに気付くようにする。

5. 小単元の指導（総時数8時間）

時数	ねらい	○学習活動 ☆内容
② (つかむ)	世界で活躍する日本人の様子や、日本の技術の写真から、日本が世界の平和や環境を守るためにしていることに興味をもち、学習問題を設定することができるようにする。	○教科書の写真から、日本人の活動の様子や日本の技術が生かされている様子を読み取り、分かったことをまとめ、学習問題を設定する。 ☆人々の生命を守ったり、暮らしを向上させたりするために、世界各国が協力し合っていること。
① (調べる)	ユニセフの活動を調べることを通して、子どもの命や権利を守るための取り組みの重要性や、ユニセフと日本の関わりを考えることができるようにする。	○黒柳徹子さんの営みや募金活動を切り口に、世界の子ども命や権利を守るユニセフのはたらきを調べる。 ☆ユニセフが、世界の子どもたちの健康や安全を守る活動を行っていること。そのためには、世界各国の協力が必要であること。
① (調べる)	国際連合のはたらきを調べることを通して、世界の平和を守るための取り組みの重要性や、国際協力の必要性をつかむ。	○国際連合のはたらきや世界の平和や社会の発展のために果たしている役割について調べ、分かったことや考えたことをまとめる。 ☆世界の平和と安全を守り、社会を発展させるためには、国際協力が必要であり、国際連合が重要な役割を果たしていること。
① (調べる)	地球温暖化など、地球環境をめぐるさまざまな問題について調べ、その解決に向けた国際協力の重要性をつかみ、持続可能な社会を目指すことの大切さを理解する。	○大気汚染や干ばつなど地球環境に関する問題について調べ、分かったことや考えたことをまとめる。 ☆地球環境を守るためには、世界各国の協力と持続可能な社会を目指していく取り組みが必要であること。
① (調べる)	世界の国々の交流の様子について調べ、お互いの文化や習慣を理解し合うことの大切さに気付き、これからの交流のあり方について考えることができるようにする。	○世界の国々との交流や、互いの理解を深めている事例について調べ、分かったことや考えたことをまとめる。 ☆日本は言葉や文化・習慣の違いを超えて、様々な国と伝統文化やスポーツを通して交流し、お互いに親善や理解を深めていること。
① (深める)	日本のODAについて調べ、その意味や役割について考え表現することで、誰もが安心して暮らすことのできる社会の実現に向けて、日本が貢献していることを理解する。	○日本が中国の小中学校の校舎建て替え事業を支援している意味を考え、日本が世界の平和や環境を守るために努力していることを「新聞」で表現する。 ☆日本は、持続可能な社会の実現のために、世界各国に向け、その国のニーズに合わせた支援をしていること。

① (ま と め る)	日本が世界の平和や環境を守るために努力していることを、キーワードを使って短い文章にまとめることができるようにする。	○教科書 p.77 を参考に、まとめの文章作りをする。 ○持続可能な社会の実現のために自分ができることを単元の学習をふり返りながら書く。 ☆地球規模の諸問題を解決するために、異なる文化をもつ国々と、共に助け合う必要があること。
-------------------------	---	---

6. 本時の指導（第7／8時）

(1) 本時のねらい

日本のODAについて調べ、その意味や役割について考え、「新聞」で表現することで、だれもが安心して暮らすことのできる社会の実現に向けて、日本が貢献していることを理解する。

(2) 本時における考え合い表現し合う活動と指導の留意点

本時では、歴史単元で学んだ既習内容を生かすことで、より意欲的・主体的に考え合うことができるようにしたいと考えた。教材にしたのは、日本が1996年にODAの草の根無償資金協力としてせんせいしょうせいへんけんとうこう陝西省靖辺県東杭中学校の校舎建て替えを行った事例である。建て替え前と建て替え後の2枚の写真の比較、「陝西省靖辺県日中友好東杭中学校」へと変更された校名に「日中友好」が加わった事実、また、1990年から22年間で300校以上の校舎の建て替えを行ったということや、両国関係の歴史的な背景を踏まえて、日本が行っているODAの意味を考えるようにする。

授業の後半では、新聞作りの活動を取り入れる。日本が各国に対して行っているODAの意味を考え、新聞に表現する活動を通して、「日本は持続可能な社会の実現のために、世界各国に対して、その国のニーズに合わせた支援をしている」ことに気付くようにする。

(3) 本時の展開

時配	○学習活動 T：発問 C：児童の反応	◎資料 ◇留意点 ◆評価
10	<p>○日本が中国の小中学校の校舎建て替え事業を支援している意味を考える。</p> <p>T：日本政府が、支援を必要とする国々に対して、社会の発展や福祉の向上のために資金や技術を提供して行う援助を、ODA（政府開発援助）と言います。</p> <p>C：JICA（国際協力機構）や青年海外協力隊も、その事業の一つと書いてあります。</p> <p>T：この写真は何の写真でしょうか。</p> <p>C：古い建物か家だと思います。</p> <p>T：実はこれは学校です。<small>せんせいしょうせいへんけんとうこう</small>陝西省靖辺県東杭中学校です。この学校が日本のODAによって建て替えられました。校名には「日中友好」という名が加えられました。</p> <p>C：まったく違う建物のように感じます。</p> <p>C：建て替え前の学校は地震が来たら崩れそうです。</p>	<p>◎教科書 p.74</p> <p>◇ODA（政府開発援助）について、教科書を使って確認する。</p> <p>◇JICA（国際協力機構）や青年海外協力隊についても触れるようにする。</p> <p>◇校舎の建て替え前と建て替え後の写真を提示する。</p> <p>◇2枚の写真を見て気付いたことを引き出すようにし、疑問点が</p>

	<p>T：日本は、なぜ中国の学校を建て替えることに協力しているのでしょうか。</p> <p>C：中国は日本よりもGDPが高いのに疑問に思います。</p> <p>○本時の学習問題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>なぜ、日本は草の根無償資金協力で中国の学校の校舎建て替えを行っているのだろうか。</p> </div> <p>T：では、まず自分の考えをノートにまとめてみましょう。</p>	<p>浮かび上がるようにする。</p> <p>◇考える時間を確保し、討論に向けた準備ができるようにする。</p> <p>◎教科書、資料集、写真など</p>
20	<p>○個人で考えたことを、学級全体で交流する。</p> <p>T：それでは、考えたことを教えてください。</p> <p>C：私は、^{せんせいしやう}陝西省の位置に着目しました。^{せんせいしやう}陝西省は農村部と考えられるので、北京や上海などの都市部と違って、貧しい暮らしをしている人が多いと考えられます。</p> <p>C：似ています。だからこそ支援が必要なのだと思います。</p> <p>T：この資料を見てください。1990年から22年間で計300校以上の校舎建て替えをしたデータです。これを見ると今話した人たちの意見が確かだと分かりますね。</p> <p>C：私は、日本が過去に戦争をした経験があるから、世界に貢献しようとしているのだと考えました。</p> <p>C：確かに、中国には反日感情があるから、「中国のために」と考えるのは自然なことだと思います。</p> <p>C：また、食料や経済の面で中国と良い関係を築いておくことは日本にとって大切なことだとも考えられます。</p> <p>C：校名に「日中友好」と加わることで、そこに通う子どもたちは日本に感謝するようになると思います。</p> <p>T：そうすると、日本と中国の良い関係が築けそうですね。</p> <p>C：日本が建て替えた新しい校舎に通う中国の子どもたちは、安心して学校に通えると思います。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>日本は、中国の子どもたちが安心して学校に通えるように、日中友好が続くようにするために、校舎の建て替えをしているんだね。</p> </div>	<p>◎ノート</p> <p>◇似た考えがつながるように話し合いを進めていく。</p> <p>◇中国の県ごとにまとめた校舎建て替えデータを提示し、農村部に建て替え件数が多いことを確認する。</p> <p>◇既習を生かした別の視点の考えを引き出す。</p> <p>◇日中関係の大切さに触れた意見を引き出す。</p> <p>◇校名に加えた「日中友好」の意味に触れる。</p> <p>◇出てきた意見を合わせて、学習問題に対するまとめをしていく。</p>
15	<p>○日本が行っているODAの意味を新聞に表現する。</p> <p>T：中国に対するODAを取り上げて考えてみましたが、日本のODAにはどのような意味があるのかを考えて、新聞にまとめてみましょう。</p> <p>C：相手の国の立場で考えていると感じました。</p> <p>C：日本にとって大切な国に対して、必要な支援をしているのだと思いました。</p> <p>C：世界みんなが平和に暮らせるように願っているのだと思いました。</p>	<p>◇ODA全体の意味について考えられるように支援する。</p> <p>◆自分が考えたことや、交流の中で聞いた友達の考えを根拠に、日本のODAについて自分なりに捉えた意味を新聞にまとめている。</p> <p>(思・判・表／新聞)</p>